NPO 法人

奈良21世紀フォーラム会報

2010 年新春号

年頭のご挨拶

奈良 21 世紀フォーラム理事長　森 本 公 誠

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には新春を迎えられて、益々ご清祥のことと心からお慶び申し上げます。昨年は世の中の暗さをいささかでも変えたいとの国民の願望が反映したのか、政権交代が起こり、民主党政権が生まれました。期待が大きかっただけに、それから 3 ヶ月余り、鳩山首相の日々刻々の動静がかもし出すギャップに、国民ははや失望しつつあるのか、支持率は急速に下がりつつあります。それでも、これまでの政治と違う何か新しさを国民は求めているのでしょう、一年を振り返る年末恒例の清水寺貫主の墨書も「新」が選ばれました。

さて、いよいよ今年は平城遷都 1300 年の記念すべき年、数年前からカウントダウンを始め、奈良県民はむろんのこと、他県の人々でも何か大きなイベントが行われるらしいと期待を寄せてきた年がとうとう来てしまいました。それなりの行事がさまざま催されるでしょうし、当 NPO 法人でも行事に参加する企画もあり、しかるべき貢献を果たしたいと、担当者は鋭意努力をしています。

それにしても、今年 2010 年が記念の年に当たるというだけでは、ただ一過性の行事で終わってしまいます。それでは 1300 年前のわれわれの先祖が、ここ奈良に日本の都を置き、どのようにして国家を治め、当時の国際情勢にどのように対処したか、その苦難の努力が生かされないのでは、と思えてくるのです。つまり、平城京の時代に生きた人々の歴史の重みを少しでも感じることこそが、県民のみならず、現代に生きる日本人の務めではないかと思うのです。それは必ずや、自信を失いつつあるといわれる現今の日本人に資するに違いありません。

平城京の時代というのは、中国の唐の律令制を手本にしながらも、日本独自の「大宝律令」という法を制定し、日本で初めて法に基づく政治、いわゆる法治国家の樹立を目指したという点で画期的な時代です。法治という意味では、現代にもつながる考え方があります。

たとえば、われわれに身近な問題でいえば、高齢者や心身障害者の保護という政策があります。当時、心身障害者はその障害の度合いに応じて残疾・廃疾・篤疾の 3 段階に分けられ、より重い廃疾・篤疾には税金が一切掛からず、残疾は調という税金が正規の男子の半額、徭役は全額免除でした。また超高齢者や重度の障害者に対する介護の優遇措置というのもあって、息子や孫が付き添った場合、80 歳の高齢者もしくは篤疾者では一人の介護者だけ、これまで介護者本人に掛かっていた税金が免除され、それが 90 歳ならば二人まで、100 歳ならば五人まで免除となりました。なお介護者は近親者を優先し、もし適当な血縁者がいなければ、一般男子でも可というのです。娘が介護者となっても、税金は関係ありません。当時女性は課税の対象外でしたから。これらは戸令という法律の第 5・7・11 条に定められていることです。会員の皆さまは当時の法律を如何ように思われるでしょうか。

事業の進捗状況と今後の活動

１．「光明皇后１２５０年遠忌法要奉納イベント」について

光明皇后１２５０年遠忌法要に際して、近畿日本鉄道が復元制作し東大寺に奉納する行事に当フォーラムが協力する計画については、聖武天皇と光明皇后の衣裳等の監修に森本理事長、猪熊理事及び武部委員が担当し概ね予定通り順調に進捗しています。

２．「万葉けまり」の事業展開

（１）「万葉けまり」とは

京都蹴鞠保存会会員が興じる公家蹴鞠はサッカーのルーツとしてサッカーの母国イングランドＦＩＦＡサッカーミュージアムで紹介されていますが、蹴鞠は日本書紀皇極３（６４４）年の記述が初見です。

２００２年ワールドカップの日韓両国開催を機に当フォーラムは日本書紀記述の蹴鞠を推作復元することになり、「蹴鞠の研究家」として知られる渡辺融東大名誉教授、古代の服飾史に詳しい猪熊兼勝京都橘女子大教授、ワールドサッカーをずっと追い続けてこられたスポーツジャーナリスト賀川浩さんのお三方を特別委員として招き蹴鞠製作委員会を発足させ蹴鞠を推作復元、京都の蹴鞠に対して奈良の蹴鞠として「万葉けまり」と命名、２００２年５月談山神社で奉納披露しました。

（２）平城遷都１３００年祭に向けて

日本書紀の史実を検証・発掘、当時の文化を甦らせることは奈良県の大きな財産の活用であり「万葉けまり」をその一つとして展開していきます。

① 平城遷都１３００年祭県民活動支援事業としての展開

・ 平成２２年は県内で数回開催予定

② 平城遷都１３００年祭参加

・ 奈良県まるごと歴史体験博磯城郡フェスティバル

期日　　平成２２年　３月　　会場　田原本北小学校　（予定）

・ 平城宮跡事業（古代行事の再現）

期日　　平成２２年１１月６日（土）　　会場　第１次大極殿正殿前庭

（３）平城遷都１３００年祭県民活動支援事業「万葉けまり」の披露

～平成２１年１０月３１日・１１月１日　奈良公園登大路園地～

両日は「正倉院展」「興福寺国宝特別展・お堂で見る阿修羅」で賑わう場所での披露、訪れた観光客に万葉けまりのルールや復元経緯をまとめたリーフレットを配布しました。遠来の観戦者も興味を示され、鞠などの用具、鞠場（コート）の資材等に質問を受けるなど成功裡に終えることが出来ました。

３．書の文化の伝承

「第３回書くことは楽しい in 奈良」～筆で書く楽しさ伝えよう～を開催

書は３千年の歴史があり、筆、墨、紙の文房三宝の技術に支えられて発展してきました。書き言葉の記号として書が書かれている間に、書は高い美術であると認められてきた歴史があります。

この企画展を通じて奈良の伝統産業である墨や筆の魅力を感じ、IT 社会においても書が私たちの生活に生き続け、新しい魅力を生み出し続けることを確信していただきたいと思います。

今回は平成２２年１０月２日から３日まで、平城遷都 1300 年祭奈良市市民連携事業として開催予定の「書くことは楽しい in 奈良～大仏さんにラブレター～」のプレイベントと位置付け、出展者も増えています。御来場をお待ちしております。

主 催 者　ＮＰＯ法人　奈良 21 世紀フォーラム
協　　力　奈良女子大学書道部、デジタル書作家協会、奈良製墨協同組合、奈良毛筆協組合
開催日時　平成２２年２月１９日（金）～２月２１日（日）
　　11：00～18：00（最終日は 15 時まで）
場　　所　なら工藝館１階ギャラリー　奈良市阿字万字町１－１
　　(http://www.eonet.ne.jp/~naramachi/)

企画内容

・奈良にゆかりのある文房三宝をめぐる匠の技と文化の紹介
　普段目にすることができない書道具の展示
　（実用性だけでなく、美術品としても価値のあるもの）

・作品展示

- 「筆で書く楽しさを味わえる作品」
　大学書道部他有志、奈良市内中学高校書道部、一般県民の作品。
- 「筆文字と IT とのコラボレーションーデジタル書の作品」
　筆文字の筆勢、字形、墨色などが持つ独特な味をＣＧアートと融合させることで新しい芸術性を生み出すデジタル書の展示

・体験コーナ
　「デジタル書」の制作実演
　筆文字と CG アートとのコラボレーション技術の演出

４．「吉野川源流水源地の森を守る」活動　源流の森と水の支援事業

（１）近鉄百貨店で「吉野の特産物」を紹介

平成２１年８月６日～１２日まで開催された近鉄百貨店橿原店の催事「味でめぐる大和百景と諸国うまいものくらべ」の会場で、吉野地方の農産物や工芸品の販売を通じ木と水の関わりを理解してもらうことを目的に、「奈良２１世紀フォーラムコーナー」を設け、特産品の販売、パネル展示、源流水の試飲、及び奈良２１世紀フォーラム会報の配布等を行いました。

（２）“水源地の村”からの提言シンポジウムに協力

平成２１年８月２６日橿原市商工経済会館大ホールで開催された「森と水の源流館」主催のシンポジウム“水源地の村”からの提言「環境に生かされた地域づくり」に協力いたしました。

基調講演は、上原　厳　氏（東京農業大学森林総合科学科准教授）

森林療法は山を歩き自然の中に身を置くことで、知的障害の子供の感情が安定したり、成人のうつ病やストレスが改善されるなぞへの効果が科学的にも証明されている療養である。「来る人の立場に立った散策道の整備や療養を理解した人材の育成が必要である」と話されました。

体験と提言では

「森林で得られる　多くのこと」

・川上村での森林環境学習の体験から（体験校学習）

・山村地域での体験学習の今後（泉谷木材商店専務　泉谷繁樹氏）

森林環境教育の事例報告が行われ、泉谷さんは熱心に環境活動を行う神戸松蔭高校を紹介され、「普通の女子高生を変えたのは、川上村の圧倒的な自然とそこでの体験、村の人の山への熱い思いである」と話された。参加者は森林の大切さをあらためて考える機会になりました。

（３）源流ふれあいディーに出店参加

平成２１年９月１３日、吉野郡川上村の「森と水の源流館」で開催されたふれあいディーに出店、吉野郡川上村と姉妹関係の長野県川上村から、白菜・レタス・セロリ他、野菜を仕入れ地域住民や旅行者などに販売しました。オープン３０分前には３０人以上の行列ができるほど好評で２時間で完売することができました。参加者からの募金は森林保全事業に寄付いたしました。

５．食文化の伝承

（１）「手もみ茶」体験講座に参加

平成２１年９月１２日、大和茶の普及及び栽培技術の確立、茶葉を利用した新製品の開発等を行っている奈良県茶業振興センターにおいて開催された「大和茶のことがわかる体験講座」に参加し、「手もみ茶」を体験しました。

茶生産者の指導で焙炉（ほいろ）と言う台で温められた茶葉を

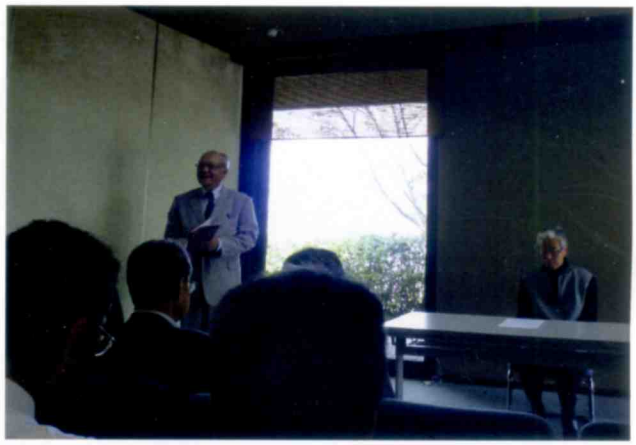
①「葉振るい」で水分をとり、
②「回転もみ」で力を加えてもみ、
③「もみきり」で形をつけて乾かし、
④「でんぐりもみ」で鉢状に伸ばし、
⑤「こくり」で形を整え光沢を出す等の
　行程を約３時間かけて行いました。

最後の乾燥は昼食の間にセンターにお願いして、帰りには手作りしたお茶を持ち帰ることが出来ました。

（2）「古式そうめんを賞味する会」を開催

“三輪そうめん山本”の山本社長のご協力を得て、平成２１年１０月１日奈良市左京の「麺ゆう館」で開催しました。

伝承料理研究家の奥村彪生先生が「日本のめん類の食べ方、つゆの歴史」をテーマに講演され、室町時代には、からしやコショウなど、現在ではほとんどつゆに使われない調味料を食べ、酒のあてにしていたと説明。奈良時代には、そうめんのルーツとされる「索餅」（さくべい）をニンニクやごま油などで食べていた「当時の人はおいしく食べるすべを知っていた」と多彩な食べ方があったことを紹介されました。



その後、先生のご指導で、手作り味噌の指導者和田博文さんが５月から仕込んで作った唐みそから搾った味噌だれなどを使い、室町時代から江戸時代のそうめんの食べ方を再現しました。そうめんは今では入手困難な県内産小麦で作ったものが使われ、味噌と鰹節を煮込んだ味噌だれや辛味大根のおろし汁を加えたつゆに、刻みねぎ、おろし生姜、練り辛子、アンズの種など好みの薬味を加えるなどして４種類の味を賞味しました。最後にはゆで小豆と水あめを使ったそうめんデザートも振る舞われ、“いにしえの味に舌鼓”をうちました。

（3）東大寺「結解料理」を体験

平成２１年１１月２８日東大寺本坊において、東大寺に伝承する「結解料理」を体験することができました。森本理事長の特別のお計らいにより、料理を担当された八百岩様や東大寺の皆様のご協力を得て、ロウソクの明かりの中で初献、弐献、参献と、僧侶に給仕されながら静かに中世の最高の料理を３時間かけていただきました。

（4）今後の活動方向

①会員参加、会員に対するサービスを重視する。

②普及活動を重視する。

③他団体との協同、協調を重視する。

④新規事業を開拓する。

（5）平成２２年度実施予定

①春：奈良県特産野菜の発掘、普及活動（試食会、講演会）

②春：宇陀市「大願寺」の薬草料理の賞味と「森野旧薬園」見学会

③８月：近鉄百貨店橿原店催事「味でめぐる大和百景」への参加
　　吉野産品を中心に料理、食品、食材を販売する。

６．「神仏霊場会」奈良県ネットワーク支援

「神仏霊場会」の事業の内、当県内の寺社ネットワークの推進を支援し、歴史街道推進協議会とも連携、観光事業の活性化に資する活動を行う計画については、「神仏霊場会奈良県事務局」が未だに設立されていないため進捗が遅れていますが、奈良神仏霊場めぐりツアーを提案し開発を行うチームを１２月に立ち上げ、年度内に具体的な提案を取りまとめる予定であります。

理事会構成

理 事 長	森本　公誠	東大寺　長老
副理事長	堀井　良殷	大阪２１世紀協会　理事長
副理事長	山口　昌紀	近畿日本鉄道（株）取締役会長
専務理事	江並　一嘉	元近鉄百貨店　副社長
理事(終身)	石橋　毅一	大和ハウス工業（株）特別顧問
理　事	足立伸之助	近鉄ケーブルネットワーク（株）取締役相談役
理　事	安細　恭弘	マルチメデイアコンサルタント
理　事	飯田　圭児	㈱近鉄百貨店　取締役社長
理　事	猪熊　兼勝	京都橘大学　名誉教授
理　事	卜部　能尚	ウラベ木材工業　代表
理　事	扇谷　泰之	㈱シードコンサルタント　取締役社長
理　事	大辻　康夫	奈良町情報館　特別顧問
理　事	岡橋　清元	清光林業㈱　代表取締役
理　事	岡村　元嗣	岡村印刷工業㈱　取締役社長
理　事	榧木　康雄	㈱日昂食品　代表取締役
理　事	菊池　　攻	奈良トヨタ自動車㈱　取締役社長
理　事	久保　昌城	竹茗堂　代表
理　事	小山　新造	小山㈱　取締役社長
理　事	近東　宏光	共同精版印刷㈱　取締役社長
理　事	豊澤　安男	奈良豊澤酒造㈱　取締役社長
理　事	中井　隆男	大和ガス㈱　取締役社長
理　事	中嶌　實男	奈良中央信用金庫　相談役
理　事	中村　憲兒	奈良交通（株）取締役社長
理　事	西口　廣宗	㈱南都銀行　取締役会長
理　事	増尾　正子	増尾グループ　常務取締役
理　事	森下　泰行	元近畿日本鉄道（株）副社長
理　事	森本　俊一	三和澱粉工業㈱　取締役社長
理　事	山本　太治	㈱三輪そうめん山本　取締役社長
理　事	吉川　勝久	近畿日本ツーリスト㈱　取締役社長
監　事	中嶌　大	中嶌大会計事務所　所長
監　事	福嶋　重博	奈良県サッカー協会　名誉会長

（50 音順　平成 22.1.1 現在）

編集　足立伸之助、安細恭弘、福嶋重博、松尾　彰
発行　NPO 法人　奈良二十一世紀フォーラム
〒630-8224 奈良市三条町 511-3 奈良交通第２ビル